

令和 7 年度

相模原市川尻財産区特別会計
歳入歳出決算審査意見書

相模原市監査委員

8 監査課第 7 5 4 - 3 号

令和 8 年 8 月 7 日

相模原市川尻財産区管理者

相模原市長 本村 賢太郎 殿

相模原市監査委員 岩 本 晃

同 橋 本 慎 一

同 中 村 昌 治

同 石 川 達

令和 7 年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算の審査意見について(提出)

地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 233 条第 2 項の規定により審査に付された令和 7 年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算及び証書類その他政令で定める書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

目 次

第 1	相模原市監査基準への準拠 -----	3
第 2	審査の種類 -----	3
第 3	審査の実施日程 -----	3
第 4	審査の対象 -----	3
第 5	審査の着眼点 -----	3
第 6	審査の主な実施手続 -----	3
第 7	審査の結果 -----	3
第 8	審査の意見 -----	3
第 9	審査の内容 -----	5
1	決算の概要 -----	5
(1)	歳入 -----	5
(2)	歳出 -----	8
2	実質収支に関する調書 -----	10
3	財産に関する調書 -----	10
別紙	特別会計歳入歳出決算審査の主な着眼点 -----	11

- (注) 1 文中に用いた金額及び面積は、単位未満は切り捨てた。
また、表中に用いた金額のうち千円単位については、原則として単位未満は切り捨てた。このため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率は、原則小数点第 2 位を四捨五入し、整数未満が生じない場合は整数で表記した。このため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 文中に用いる「ポイント」及び表中の比率は、パーセント間の単純差引数値である。
- 4 各表中の符号の用法は次のとおりである。
「0.0」…… 該当数値はあるが単位未満のもの
「100.0」…… 単位未満を四捨五入したもの
「△」…… 収支不足額を示し、又は増減では減を示すもの
「－」…… 算出不能、該当数値のないものなど
- 5 前年度に対する増減比率で、前年度に数値がなく全額増加した比率については「皆増」、当年度に数値がなく全額減少した比率については「皆減」と表記した。

令和 7 年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算の審査意見

第 1 相模原市監査基準への準拠

この審査は、相模原市監査基準(平成 29 年相模原市監査委員訓令第 1 号。以下「監査基準」という。)に準拠して実施した。

第 2 審査の種類

地方自治法第 233 条第 2 項の規定に基づく特別会計歳入歳出決算審査

第 3 審査の実施日程

令和 8 年 7 月 1 日から同年 8 月 3 日まで

第 4 審査の対象

- 1 令和 7 年度相模原市川尻財産区特別会計歳入歳出決算
- 2 歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び証書類

第 5 審査の着眼点

監査基準第 11 条第 6 項第 4 号の規定に基づき、別紙のとおり主な着眼点を定めて審査を行った。

第 6 審査の主な実施手続

監査基準第 14 条及び第 15 条の規定に基づき、試査を基本とし、歳入歳出決算、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書(第 7 及び別紙において「決算その他関係書類」という。)について関連証憑の突合、計算突合、分析的手続、質問、閲覧等の手法により審査の手続を行った。

第 7 審査の結果

第 1 から第 6 までのとおり審査した限り、重要な点において、決算その他関係書類が法令等に適合し、かつ、その内容が正確であると認められた。

第 8 審査の意見

川尻財産区の決算額は、歳入 1,743 万円、歳出 1,675 万円となっている。

決算額を前年度と比較すると、歳入は 322 万円(22.7%)増加している。これは主として、生産物売払収入が 248 万円、川尻財産区運営基金の利子収入が 41 万円、雑入が 32 万円増加したことによるものである。川尻財産区運営基金からの繰入金は 970 万円で、歳入の 55.6%を占めている。

歳出は 311 万円 (22.8%) 増加している。これは主として、財産管理費が 223 万円、本沢梅園管理費が 55 万円及び川尻財産区運営基金への積立金が 41 万円増加したことによるものである。

本沢梅園以外の山林財産からの収益を見込むことが厳しい状況であるので、経常経費の節減に努め、財産区有財産の適切な維持・管理に今後とも努められたい。

第9 審査の内容

1 決算の概要

決算額は、歳入1,743万円、歳出1,675万円で、形式収支は67万円となり、翌年度へ繰り越すべき財源はないので、実質収支も同額である。

決算額を前年度と比較すると、歳入は322万円(22.7%)、歳出は311万円(22.8%)の増加である。

決 算 の 状 況

(単位：円、%)

区 分	7 年 度	6 年 度	増 減 額	増 減 率
予 算 現 額	23,094,000	17,500,000	5,594,000	32.0
歳 入 決 算 額 A	17,435,840	14,208,660	3,227,180	22.7
歳 出 決 算 額 B	16,757,173	13,641,959	3,115,214	22.8
形 式 収 支 (A－B) C	678,667	566,701	111,966	19.8
翌年度へ繰り越すべき財源 D	0	0	0	—
実 質 収 支 (C－D) E	678,667	566,701	111,966	19.8
前 年 度 実 質 収 支 F	566,701	523,621	43,080	8.2
単 年 度 収 支 (E－F)	111,966	43,080	68,886	—

(1) 歳 入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
7	23,094,000	17,435,840	17,435,840	0	0	75.5	100
6	17,500,000	14,208,660	14,208,660	0	0	81.2	100
増減	5,594,000	3,227,180	3,227,180	0	0	△ 5.7	0
増減率	32.0	22.7	22.7	—	—	—	—

歳入における決算の状況は、予算現額2,309万円に対し、調定額1,743万円で、その全額が収入済となっている。

前年度と比較すると、予算現額は559万円(32.0%)、調定額及び収入済額は322万円(22.7%)の増加となっている。

財 源 別 対 前 年 度 比 較

(単位：千円、%)

区 分	決 算 額		構 成 比 率	
	7 年度	6 年度	7 年度	6 年度
自 主 財 源	17,436	14,209	100	100
依 存 財 源	0	0	0	0
計	17,436	14,209	100	100

(注) 本表は、地方財政状況調査の分類方法を準用した。

収入済額は、すべて自主財源である。

第 1 5 款 財産収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
7	5,932,000	5,984,088	5,984,088	0	0	100.9	100
6	3,102,000	2,827,118	2,827,118	0	0	91.1	100
増減	2,830,000	3,156,970	3,156,970	0	0	9.8	0

収入済額598万円を前年度と比較すると315万円(111.7%)の増加である。これは主として、生産物売払収入が248万円及び川尻財産区運営基金の利子収入が41万円増加したことによるものである。

収入済額の主なもの

- ・ 生産物売払収入 460万円
- ・ 土地貸付収入 73万円

第 2 0 款 繰入金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
7	15,661,000	9,700,000	9,700,000	0	0	61.9	100
6	12,897,000	10,000,000	10,000,000	0	0	77.5	100
増減	2,764,000	△ 300,000	△ 300,000	0	0	△ 15.6	0

収入済額970万円は川尻財産区運営基金繰入金で、前年度と比較すると30万円(3%)の減少である。

第 2 5 款 繰越金

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
7	500,000	566,701	566,701	0	0	113.3	100
6	500,000	523,621	523,621	0	0	104.7	100
増減	0	43,080	43,080	0	0	8.6	0

収入済額56万円は前年度剰余金で、前年度と比較すると4万円(8.2%)の増加である。

第 3 0 款 諸収入

(単位：円、%)

区分 年度	予算現額(A)	調定額(B)	収入済額(C)	不納欠損額	収入未済額	収入率	
						$\frac{(C)}{(A)}$	$\frac{(C)}{(B)}$
7	1,001,000	1,185,051	1,185,051	0	0	118.4	100
6	1,001,000	857,921	857,921	0	0	85.7	100
増減	0	327,130	327,130	0	0	32.7	0

収入済額は118万円で、前年度と比較すると32万円(38.1%)の増加である。これは主として、雑入が32万円増加したことによるものである。

収入済額の主なもの
雑入 ・ 梅園管理費

114万円

(2) 歳 出

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
7	23,094,000	16,757,173	0	6,336,827	72.6
6	17,500,000	13,641,959	0	3,858,041	78.0
増減	5,594,000	3,115,214	0	2,478,786	△ 5.4
増減率	32.0	22.8	—	64.2	—

歳出における決算の状況は、予算現額2,309万円に対し、支出済額1,675万円で、執行率は72.6%となっている。これらを前年度と比較すると、予算現額は559万円(32.0%)の増加、支出済額は311万円(22.8%)の増加であり、執行率は5.4ポイント低下している。

不用額633万円は、予算現額の27.4%(前年度22.0%)である。

第5款 議会費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
7	751,000	609,994	0	141,006	81.2
6	748,000	672,044	0	75,956	89.8
増減	3,000	△ 62,050	0	65,050	△ 8.6

支出済額60万円は議員報酬費で、前年度と比較すると、6万円(9.2%)の減少である。不用額14万円は、議会事務費8万円及び議員報酬費6万円である。

第 10 款 総務費

(単位：円、%)

区分 年度	予 算 現 額	支 出 済 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
7	21,843,000	16,147,179	0	5,695,821	73.9
6	16,252,000	12,969,915	0	3,282,085	79.8
増減	5,591,000	3,177,264	0	2,413,736	△ 5.9

支出済額1,614万円を前年度と比較すると317万円(24.5%)の増加である。これは主として、財産管理費が223万円、本沢梅園管理費が55万円増加したことによるものである。

支出済額の主なもの

- ・財産管理費 867万円
- ・本沢梅園管理費 674万円

不用額の主なもの

- ・財産管理費 361万円
- ・本沢梅園管理費 199万円

第 25 款 予備費

(単位：円)

区分 年度	予 算 額	充 用 額	予 算 現 額	不 用 額
7	500,000	0	500,000	500,000
6	500,000	0	500,000	500,000
増減	0	0	0	0

予備費の充用はなかった。

2 実質収支に関する調書

実質収支に関する調書に記載されている川尻財産区特別会計の計数は、次のとおりである。

実 質 収 支

(単位：千円)

会 計 区 分	歳 入 歳 出 差 引 額	翌年度へ繰り越すべき財源			実質収支
		継 続 費 繰 越 額 通 次 繰 越 額	繰 越 明 許 費 繰 越 額	事 故 繰 越 し 額	
川尻財産区特別会計	679	0	0	0	679

3 財産に関する調書

公有財産及び基金の異動状況は、次のとおりである。

財 産 の 状 況

区 分		単位	6 年度末現在高	7 年度中増減高	7 年度末現在高
公有財産	土 地	m ²	766,496.68	0	766,496.68
	建 物	m ²	52.00	0	52.00
	出 資 に よ る 権 利	円	420,000	0	420,000
基金	資 基 金 金 積 積 立 立 金 金	円	205,413,002	△ 9,056,000	196,357,002

(土地のうち山林の内訳)

区 分	面 積 (m ²)			立木の推定蓄積量 (m ³)		
	6 年 度 末 現 在 高	7 年 度 中 増 減 高	7 年 度 末 現 在 高	6 年 度 末 現 在 高	7 年 度 中 増 減 高	7 年 度 末 現 在 高
山 林	766,241.77	0	766,241.77	21,522.42	126.90	21,649.32

(1) 公有財産

ア 土地及び建物

土地及び建物の年度末現在高は766,496m²及び52m²で、前年度と同じである。山林の立木の推定蓄積量の年度末現在高は21,649m³となり、前年度と比較すると126m³増加している。

イ 出資による権利

出資による権利の年度末現在高は42万円で、前年度と同じである。

(2) 基金

基金の年度末現在高は1億9,635万円で、前年度と比較すると905万円減少している。

別紙

特別会計歳入歳出決算審査の主な着眼点

1 形式審査

- (1) 決算その他関係書類は法令で定める様式を基準として作成されているか。
- (2) 決算その他関係書類の計数は正確か。
- (3) 歳入歳出決算額は証拠書類と一致しているか。

2 実質審査

(1) 予備調査(計数分析)

- ア 総計決算と純計決算の計数比較
- イ 会計別、款・項別予算執行状況の年度間比較
- ウ 財源別、決算額、構成比の年度間比較
- エ 性質別、決算額、構成比の年度間比較
- オ 会計別、市債現在高の年度間比較
- カ 会計別、債務負担行為(翌年度以降支出予定額)の年度間比較
- キ 財政指標の年度間比較(経常収支比率、実質収支比率、財政力指数、公債費負担比率)

(2) 内容審査

ア 共通的事項

- (ア) 年度区分及び会計区分を誤っているものはないか。
- (イ) 収入・支出の振替及び更正の手続は適正に行われているか。
- (ウ) 前年度の収入未済額は当年度繰越調定額と符合しているか。
- (エ) 前年度の決算における翌年度への繰越金は相違なく当年度の歳入に入っているか。

イ 歳入

- (ア) 調定の時期及び手続は適正か。
- (イ) 収入済額は予算現額に比べて著しい差異はないか。その理由は何か。また、前年度と比べて著しい増減はないか。その理由は何か。
- (ウ) 収入済額は調定額に比べて著しい差異はないか。その理由は何か。また、前年度と比べて収入率が著しく低下しているものはないか。その理由は何か。
- (エ) 収入未済、不納欠損処分及び滞納処分停止の事務処理は適切か。

ウ 歳出

- (ア) 予算額に比べて多額の不用額を生じているものはないか。その

理由は何か。

(イ) 予備費充用又は流用増減額の理由及び手続は適正であるか。

(ウ) 継続費の逡次繰越し、繰越明許費による繰越し、事故繰越し等の繰越理由及び手続は適正か。

エ 財産

(ア) 異動増減の理由及び処理は適正か。また、現在高は正確か。

(イ) 基金について、当初の設置目的を達したため見直すべきものはないか。